

面と向かって、健康に寄り添って。 300年以上、セルフメディケーションを お手伝いしています。

あるとホッとする
おきぐすり

世界中で、どこも経験したことのない超高齢化社会を迎えた日本。1日でも長く健やかに、自分らしく生きたいの思いから、健康ブームもますます高まっているようです。

現に、いろいろな健康法やさまざまな健康グッズが出回っていますが、大事なのは、現在のご自分に合った情報やモノを選ぶこと。

遠く300年以上も昔から全国各地のご家庭を訪ねてきた配置薬（おきぐすり）は、お客様に合った健康づくりを直接、対面でお手伝いしています。



備えて安心、使って便利。配置薬。

①「使った分だけお支払い」

配置薬は、預けてあるお薬の中で使用した分の代金を後から支払うという「先用後利」の販売システムです。

常備薬として揃えておきたい薬がセットしてありますので、買い置きの必要もなく経済的。配置箱のご契約の際も、保証金やシステム使用料が一切、必要ありません。



②「もしもに備える品揃え」

体調の変化に気づいたら、軽いうちに早めのお手当が大事。配置箱の中には、かぜ薬や熱さまし、痛み止め、胃薬、目薬、湿布薬、キズ絆創膏など、初期のお手当に必要な品揃えとなっています。

また、地震など自然災害が発生した場合でも、備えていれば安心です。



③「定期訪問し、点検・補充」

配置薬は都道府県知事から販売許可を受け、知事の身分証明書を交付された配置員が年に2～4回定期訪問します。使用実績に応じて薬が不足しないよう、また期限切れが生じないように点検・補充を行っています。



④「お気軽にご相談を」

薬は症状に応じて、正しく、適切に使用することで効き目が発揮されます。でも、体調の問題で予期せぬ健康被害が生じる場合もありますので、要注意。薬剤師や登録販売者など専門家に相談しながら、適正な使用方法を心がけましょう。



8月1日は
配置薬の日

全国配置薬協会

8月1日「配置薬の日」に合わせて

全国統一

献血活動

を実施しています。

使い方を正しく守って。 配置薬で上手にセルフメディケーション。

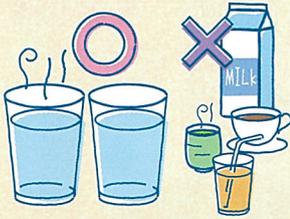
(おきぐすり)



あるとホッとする
おきぐすり

内服薬の正しい飲み方

■コップ1杯の水かぬるま湯で



水なしで飲むと、薬がのどや食道にひっかかって、炎症や潰瘍の原因に。

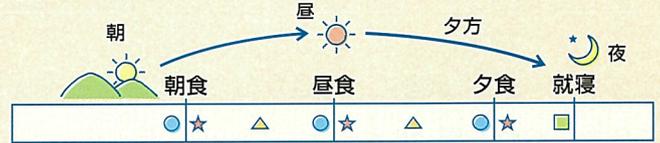
また水の量が少ないと、薬の吸収が低下したり、効き目が遅くなることがあります。

★Check Point①

ほかの飲み物で薬を飲むと…

- 牛乳 効き目が低下したり、効果の発現に時間がかかることがある。
- ジュース 吸収が低下することがある。
- コーヒー・お茶 カフェインが含まれている薬の場合、過剰摂取になる。
- アルコール 薬の効き目が強く出過ぎたり、副作用が現れやすくなる。

■飲む時間を守る



- 食前 = 食事の30分前までに。
 - ★食後 = 食後30分くらいまでに。
 - △食間 = 食事と食事の間で、食後2、3時間頃に。
 - 寝る前 = おやすみになる30分くらいまでに。
- ！頓服 = 必要に応じて。痛みやせき、発熱など、
(とんぷく) 症状のひどい時に

★Check Point②

薬を飲み忘れてしまっても…

- 次回に倍の量を飲まない
- 「何時間空ける」など服用間隔を確認してから服用

配置箱の正しい保管法

1 直射日光、高温多湿を避ける



太陽光や温度、湿度の影響で薬の効果が落ちることがあるので、日の当たらない室内の涼しい場所に

2 子供の手の届かないところ



小さな子供が誤って飲んでしまわないよう、手の届かない場所に

3 外箱や説明書は使い切るまで一緒に



使用上の注意などがいつでも確認できるように、外箱や説明書は薬を使い切るまで保管

4 配置薬以外は入れない



健康食品、サプリメントなどは一緒にしない

説明書は使用前に必ず読みましょう

配置薬についている説明書は、薬を効果的に、安全に使用するための情報がわかりやすく掲載されています。内容は「使用上の注意」「成分」「効能・効果」「用法・用量」「保管及び取り扱い上の注意」「お問い合わせ先」が記載されており、特に「使用上の注意」には「してはいけないこと」、「相談すること」が記載されており、使用前に必ず確認しましょう。

- してはいけないこと** …守らないと症状が悪化したり、副作用や事故が起こりやすくなる「禁忌事項」
- 相談すること** …使用者の自己判断で使用する事が不適当な場合や、使用後に現われるおそれがある副作用について、医師、薬剤師等の専門家に相談することを記載

★Check Point③

特に影響を受けやすい人

- 子供 大人用の薬を、量を減らして使用することは絶対に避け、必ず子供への使用が認められている薬を使いましょう。
- 高齢者 内臓の機能が低下して薬の代謝・排泄が遅くなるため、薬の作用が強くなり現われるおそれがあります。また慢性疾患や複数の病気、症状を抱えており、多種類の薬を使用しているケースも増えています。
- 妊娠中、授乳中の女性 妊娠中の薬の使用は胎児への影響が考えられるので、十分な配慮が必要。また授乳中は服用した薬の成分が母乳にも影響を及ぼす可能性があります。

